

## 世界一のほたるのまちづくり

北九州市建設局下水道河川部水環境課ほたる係

### はじめに

日本で多く見られるゲンジボタルやヘイケボタルのように、幼虫の時期を水中で過ごす水生のホタルは、世界的にはとても珍しい存在であることをご存知でしょうか。「ホタルはきれいな水のバロメーター」というイメージがありますが、意外にもほとんどのホタルが一生を陸上ですごしているのです。

世界で約2,000種類もいるホタルのうち、日本には40種類以上のホタルが生息しています。九州最北端に位置し、「工業の街」としてのイメージのある北九州市ですが、ゲンジボタルやヘイケボタルのような水生のホタルのほか、ヒメボタルやオオマドボタルなどの陸生ホタルを見ることができます。

都市化の進展とともに一時期激減した北九州市のホタルも、今では、自然が多く残る郊外の川はもちろん、街のなかの住宅地を流れる川など、市内約60もの河川でホタルが見られるまでに蘇ったわけですが、それには長い歴史があったのです。



撮影：奥村一夫さん

### 公害の発生と克服に向けた取り組み

昭和30～40年代の高度経済成長期、日本は全国的な公害問題を抱え、4大工業地帯のひとつとして目覚ましく発展した北九州市も深刻な公害問題や、都市化による自然破壊の問題に直面しました。さ

らに、家庭からは合成洗剤を含んだ下水が河川に流され、水田には農薬が散布されました。また、田畑の減少やコンクリートによる河川整備でホタルの生活する環境が奪われ、ホタルをはじめとした水辺の生き物たちはすっかり姿を消してしまいました。

その後、市民、企業、学校、行政が力を合わせ、公害克服への取り組みが始まりました。下水道整備が進むにつれ、河川の水質は少しずつきれいになっていきました。

### ホタルが戻ってきた

初夏の風物詩として遠い昔から人々に親しまれてきたホタルの激減は、環境問題を身近な問題として捉えるきっかけとなり、「もう一度ホタルを見たい」という人々の声が各地から聞こえてきました。こうして市民のみなさんの河川清掃やホタル保護活動が始まったのです。

昭和54年に小倉北区の小熊野川（おぐまのがわ）に放流したゲンジボタルの幼虫が翌年見事に飛翔し、ホタルに対する関心が一挙に高まって、全市に活動の輪が広がっていきました。小学校でもホタルの飼育が始まり、各地でホタル祭りも開催されるようになりました。市もホタルをはじめとする生き物たちとの共生を目的とした河川整備を行うようになりました。

ホタルを通じて、地域と学校、そして行政とが一体となって取り組んだ結果、市内各地にたくさんのホタルたちが戻ってきたのです。

### 「ほたる係」誕生

ホタルを河川に呼び戻す住民運動の高まりを受けて、平成4年、北九州市は全国に先駆けて「ほたる係」を設置しました。市民にわかりやすい水辺環境の保全・再生事業を、市民と行政とが一体とな

って行うためには、ホタルをシンボルとして取り組むことがより効果的であると考えたためです。

ほたる係の仕事は、その名のとおり、北九州市をホタルなどの身近な生物がたくさん棲むようなまちにするため、市民とともに良好な水辺環境の保全や再生に取り組むと同時に、地域の人々が水辺を愛し大切にしていける気持ちを持つよう、市民のみなさんと一緒になっていろいろな活動をしていくことです。

それでは、ほたる係の主な仕事を紹介します。

## 1. ホタル保護育成活動の支援

### (1) ホタル育成助成金の交付

市内各地で活動するホタル愛護団体に対して、ホタルの幼虫飼育や河川清掃等に係る資金援助を行っています。ホタルに特化した助成金は全国的にも珍しい制度です。

### (2) ほたるアドバイザーの派遣、ほたるなんでも相談

「北九州ほたるの会」の会員などホタルの専門家を現地に派遣して、ホタルの飼育や水辺環境についてのアドバイスを رفتたり、北九州市ほたる館で相談会を実施したりしています。

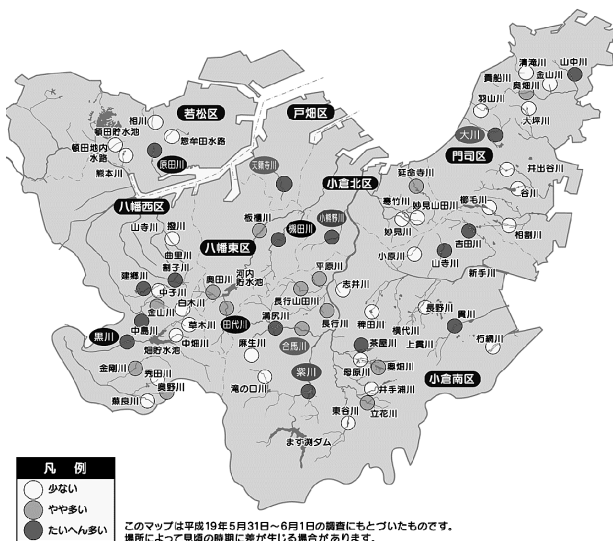
### (3) ほたる会議

市内のホタル愛護団体、小学校及び河川・環境などに携わる行政関係部署との情報交換と交流を図ることを目的として、ほたる会議を実施しています。

## 2. ホタルの保護・水辺環境保全の啓発

### (1) ホタル飛翔調査とほたるマップ、啓発パンフレットなどの作成

市民と一緒に年1回、市内約70河川でホタル飛翔数の調査を行い、その結果をほたるマップで公表



しています。また、市民ボランティアの協力を得て、ホームページにてピーク時の飛翔状況をリアルタイムで情報提供したり、啓発用のパンフレットを作成し配布したりしています。

### (2) ほたる出前講演

市民の要望に応じて、ホタルの生態やホタルを通じた水辺づくりなどについて、出前講演を行っています。

### (3) シンポジウムなどの開催

市民にホタルなどの水生生物と水辺環境に関心を持ってもらうため、シンポジウムを開催したり、ホタルの絵手紙コンクールなど、ホタルに関する催し物を開催しています。

## 3. ボランティア育成・環境学習

地域環境ボランティア活動のリーダーを育成するため、ホタルと水辺環境を学ぶ市民講座「ほたる塾」を毎月1回（年12回）開催したり、子どもたちに命と環境の大切さを学習してもらうホタル学習親子バスツアーを実施したりしています。

## 「北九州市ほたる館」誕生

北九州市では、市民のみなさんによって20年以上にわたりホタルを守る活動が続けられています。自然環境の保全に関する活動を支援し、ホタルをはじめとした水辺の生物やその生息環境について学習、調査研究を行う施設として、平成14年に北九州市のホタル保護発祥の地、小熊野川のそばに「北九州市ほたる館」が誕生しました。



館内では、実際に光るホタルや水生生物が観察でき、ホタルの分布・形態・生活史などがわかるパネルや模型が展示されています。また屋外には、



子どもたちが遊びながら身近な水辺を体験できる「せせらぎ水路」などもあります。

このほたる館の特徴は、なんといっても本物のホタルの光る様子を、一年中昼間に観察できるということです。ほたる館では、明暗条件や室温を調整してホタルの飼育を行い、日中にホタルを観察できるように研究しています。自然界では初夏の夜にしか見られないものが、ゲンジボタルについては12月始めまで、ヘイケボタルについては一年中淡い光を放っており、来館者を楽しませてくれます。本物のホタルを卵から幼虫、さなぎ、成虫まで一度に観察でき、ホタルの一生を実物で学習できる全国でも大変珍しい施設です。

このようなほたる館の活動や運営を支えているのは、「ほたる館サポーター」と呼ばれる市民ボランティアの方々の大きな力です。ほたる館の案内・説明や水生生物の飼育などを手伝ってもらっており、市民とともにほたる館の運営に取り組んでいます。

### ホタルのネットワークづくり

ホタルが好き、ホタルの棲む水辺を守りたい、そんな市民のみなさんの思いが各地にホタルの愛護団体をつくりました。今では、市内にホタルの愛護団体が30以上あります。これらの団体が平成7年にネットワークをつくってできたのが、「北九州ほたるの会」です。

北九州ほたるの会は、市民のみなさんのホタル保護育成活動の助言・指導をしたり、ほたる係とタイアップして、ホタル飛翔調査やホタル観賞バスツアーなどを実施したりして、市内各地のホタル情報を収集・発信し、ほたる館を拠点とした環境ボランティア活動の中心的役割を担っています。

### 全国とのネットワークづくり

平成元年に、当時の環境庁による「ふるさといきものの里100選」で選ばれた市町村のなかで、日本一のホタルの里を目指す自治体の首長が集まって、ホタルの保護や自然環境保全をはじめ、ホタルを通じた経済・文化等の交流を促進することを目的として、「ほたるサミット」が毎年開催されていま

す。平成19年度には、北九州市で「2007ほたるサミット北九州」が開催され、約570人が参加しました。このサミットを通じて、今後とも日本全国の環境にやさしい自治体とのネットワークを育てていきたいと考えております。



### ホタルを通じた国際交流

また、北九州市と北九州ほたるの会は、平成13年からホタルと人間が共生する自然環境の保全を目指して、韓国と市民交流を続けています。毎年お互いの国でホタルシンポジウムを開催したり、ホタル祭りを視察したりしています。北九州市では北九州ほたるの会との共催で、毎年「国際ほたるシンポジウム」を開催しています。ホタルは世界中に生息していることから、最近では韓国以外にも台湾などとの交流も深めているところです。小さなホタルを通じての国際交流は他に類がなく、ホタルを通じた世界中とのネットワークづくりを、今後ともさらに進めていきたいと考えています。



---

## 世界一のほたるのまちを目指して

北九州市は今、「世界の環境首都」を目指し、国境や世代を越えて「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ取り組みを行っています。きれいな水辺に棲むホタルが多く見られるということは、きれいな水や空気、草や木々な

ど、豊かな自然にあふれているということです。人もホタルも世界一すみやすいまち。北九州市では、そんなまちづくりを進めています。

北九州市建設局下水道河川部水環境課長 田中 傑